

広島大学医学集談会

(平成16年1月5日)

—学位論文抄録—

1. Some approaches to treatment of patients with thyroid nodular diseases in the Semipalatinsk region of Kazakhstan.

(カザフスタン共和国セミパラチンスク地方の核実験場周辺地域における良性甲状腺結節の治療に対する試み)

Zhaxybay Shaimardanovich Zhumadilov
原爆放射線医科学研究所(附属国際放射線情報センター)

【目的】カザフスタン共和国・セミパラチンスクの核実験場周辺地域では放射線被曝の後障害により甲状腺結節が多発することが知られている。今回は甲状腺結節への5.0%phenol注入によるエコー下経皮的硬化療法(PIITP)の有用性について比較・検討を行った。

【方法・結果】26歳から77歳まで(平均年齢: 52.9 ± 1.3 歳)の74名(女性72名, 男性2名)に硬化療法を施行した。治療前, 1, 3, 6, 12ヵ月後にエコー下で結節の容積測定と吸引細胞診を行った。硬化療法による甲状腺結節の12ヵ月後の縮小率は adenoma では平均55.5%, colloid nodule では平均60.1%であった。

【考察】PIITPは良性甲状腺結節を縮小させるのに有用であった。PIITPがセミパラチンスクの核実験場周辺地域における新たな治療選択のひとつに加わる可能性が期待される。

2. A single nucleotide polymorphism in the transmembrane domain coding region of *HER-2* is associated with development and malignant phenotype of gastric cancer

(*HER-2* 遺伝子の細胞膜貫通部位コード領域における一塩基多型は胃癌の発生及び悪性度と関連する)

倉岡和矢
創生医科学専攻探索医科学講座(分子病理学)

癌遺伝子 *HER-2* の細胞膜貫通部位コード領域の *Ile/Val* cSNP (single nucleotide polymorphism) と胃癌との関連を症例対照研究及び臨床病理学的解析により検討した。使用した症例は胃癌症例212例及び対照例287例である。遺伝子型は, 非癌部胃粘膜よりゲノムDNAを抽出しPCR-RFLP法にて解析した。胃癌症例において *Val* allele を持つ遺伝子型は対照例に比べ統計学的に有意に多かった。胃癌症例における臨床病理学的な検討では, より深い深達度を示す症例, リンパ節転移を伴う症例, より進んだ病期にある症例では, *Val* アリルを持つ遺伝子型が統計学的に有意に多かった。これらのうち病期との関連が最も強く ($p < 0.001$), さらに, 多変量解析により病期を規定する因子のうち SNP と最も強く相関するのはリンパ節転移の有無であることが判明した。以上より, *HER-2* 遺伝子の細胞膜貫通部位コード領域における SNP は胃癌の発生及び悪性度と関連することが示され, この多型は胃癌の発生や悪性度の有用なマーカーとなり得ることが示唆された。

3. Elevated C-reactive protein is a risk factor for the development of type 2 diabetes in Japanese Americans

(日系米人においてC反応性蛋白の高値は糖尿病発症の危険因子である)

中西修平
展開医科学専攻病態制御医科学講座(分子内科学)

【目的】遺伝的には日本人と同一と考えられるが糖尿病発症率が約2倍の日系米人の血清高感度CRP(hsCRP)を測定し, 糖尿病発症における意義を検討する。

【対象・方法】対象は1988年から2000年までの医学調査を2回以上受診した非糖尿病の米国在住日系米人男性396名, 女性551名で, 初回受診時のhsCRP値とその後の糖尿病発症の有無との関係を男女別に検討した。

【結果】Cox比例ハザードモデルにおいて, hsCRP